

## 6 本時のねらい (2/2)

身の回りにあるもののかさについて、その違いを明確に表して比べるときは、任意単位 (同じカップ) を用いて数値化すればよいことに気づき、その方法でかさくらべができる。

## 7 本時の展開

学 習 活 動	指 導 ・ 援 助
<p>1 前時の学習内容を想起し、かさ比べの2つの方法を確認する。</p> <p>①⑥のびんに水をいっぱいに入れて、それを⑦のびんに移し替えて比べたら、⑦のびんの方がたくさん水が入ることが分かったよ。</p> <p>②⑧と⑨のびんに水をいっぱいに入れて、それを同じ2つのコップに移し替えて水の高さで比べたら、やっぱり⑨の方が、たくさん入ることが分かったよ。</p> <p>2 今日の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どちらがどれだけおおくはいるか、わけをつけておはなししよう。</p> </div> <p>3 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④が多いと思う。</li> <li>長さ比べのときは、消しゴムの何個分や鉛筆の何本分で比べたから、かさ比べでも、何か同じ入れ物の何個分で比べればいいのではないかな。</li> <li>広さ比べのときは、同じマスが何個分かで広さを比べたから、かさ比べでも、何か同じ入れ物の何個分で比べればいいのではないかな。</li> <li>測る入れ物より小さい入れ物を使った方がいいね。</li> <li>同じ大きさのカップにしないといけないね。</li> <li>カップいっぱいに水を入れないといけないね。</li> <li>測る入れ物の中には水を残してはいけないね。</li> </ul> <p>4 自分の考えをもつ。(ペア活動)</p> <p>①こたえみつけ (どちらがどれだけ多く入るか)</p> <p>②わけをみつけ (どうしてかというとき…)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>□のほうが カップ□はいぶんおおい。          どうしてかというとき          ④ は カップ□はいぶん          ⑧ は カップ□はいぶん だから。</p> </div> <p>5 全体で追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④の方がたくさん入りました。              どうしてかというとき、④はカップ5杯分、⑧はカップ4杯分で、④の方が⑧より1杯分多く入るからです。</li> <li>同じ大きさの入れ物のいくつ分かを調べればかさ比べができるね。どちらがどれだけ多いかも分かるから便利だよ。</li> <li>いくつ分で比べるのは、長さ比べや広さ比べのときと同じだね。</li> </ul> <p>6 本時のまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かさは、おなじおおくさのいれもの<u>いくつぶんか</u>でくらべる。</p> </div> <p>7 鉛筆1に取り組み、ペアで確認し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一番多く入るのは、⑧です。どうしてかというとき、⑧より6杯分、④より2杯分多く入るからです。</li> <li>この方法だと、3つのかさも一度に比べられるね。</li> </ul>	<p>1 前時を振り返り、本時の学習内容をつかむことができるようにする。</p> <p>2 本時は、大小比較だけでなく、どれだけ多く入るかも調べることを意識させる。</p> <p>3 どちらが多いか予想を立てさせる。          長さや広さ比べの学習を想起させ、任意単位による数値化の考え方を引き出す。          操作活動をする際に気を付けなければならないことを確認しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>こぼさない。</li> <li>カップいっぱいに入れる。</li> <li>ペットボトルにみずをのこさない。</li> </ul> </div> <p>4 ④と⑧の水を着色し、区別しやすいようにする。          任意単位による数値化を一人一人が実感できるように、一人1本ずつの活動を位置付ける。          数値化のよさに気付けるように、ペアで結果を確かめさせる。</p> <p>5 板書に提示したモデルを示しながら話をするようにする。</p> <p>6 児童の言葉を拾いながらまとめていく。</p> <p>7 ペア確認の視点として「答えだけでなく、「わけもつけて話せるか」を示しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>評価規準【数学的な考え方】              「カップ□はい分」を使って、どの入れ物がどれだけ多く入るかを説明することができる。</p> </div>